

Performing Arts Meeting in Yokohama 2019

国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2019

開催報告書



名称	国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2019 Performing Arts Meeting in Yokohama 2019
通称	TPAM2019
会期	2019年2月9日（土）～17日（日）
主会場	Kosha33（神奈川県住宅供給公社）、日本大通り、KAAT神奈川芸術劇場、横浜市開港記念会館、象の鼻テラス、BankART Station、横浜赤レンガ倉庫1号館、mass×mass 関内フューチャーセンター、Amazon Club
主催	国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2019 実行委員会（国際交流基金アジアセンター、公益財団法人神奈川芸術文化財団、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、PARC – 国際舞台芸術交流センター）
助成	公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー
後援	外務省、文化庁、神奈川県、横浜市
提携事業	横浜ダンスコレクション2019、舞台芸術制作者オープンネットワーク（ON-PAM）、舞台芸術AiRミーティング、アートサイトラウンジ「場づくりとアートの営み」

国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2019（TPAM2019）は、「芸術見本市（TPAM/Tokyo Performing Arts Market）」としての東京での第1回開催（1995）から23回目、同時代的舞台芸術に取り組むプロフェッショナルを主対象と定義（2005）してから14回目、横浜に移り「見本市」から「ミーティング」へ改称（2011）してから9回目、アジア・フォーカスを開始（2015）してから5回目の開催となった。

TPAMエクステンジ（プロフェッショナルの交流プログラム）、TPAMディレクション（主催公演プログラム）、TPAMフリンジ（公募公演プログラム）の3つのカテゴリーで、横浜の主会場（TPAMディレクション、TPAMエクステンジ）および横浜・東京の複数会場（TPAMフリンジ）にて、9日間に渡りプログラムを展開。専門的な内容・機能に特化した一部の交流プログラムを除き、一般観客も参加可能とした。

アジア・フォーカスを開始した2015年から2017年までの2年間でアジア・オセアニアからの参加登録者数がほぼ倍増し、それ以降3年間、概ね一定している（5頁参照）。ヨーロッパ・北米からの参加登録者数も同様の推移を示しているが、これは欧米の舞台芸術セクターにおけるアジアへの関心の高まりと、ONDA（フランス芸術振興会）などの意欲的なデリゲーションの継続的参加を反映している。TPAMフリンジの登録数も、舞台芸術の公演に適する横浜の会場がほぼ使い尽くされている感もあり、2017年以降同規模で推移している（21頁参照）。

Photo by Yuri Yamada



BankART Station（オープニング・レセプション）

前回開催（TPAM2018）の翌月、それまで公演会場およびTPAMエクステンジの主会場として参加者に親しまれてきたBankART Studio NYKが閉館した。運営母体のBankART1929はその後、みなとみらい線新高島駅構内に1,000平米のスペース「BankART Station」、山下町のシルクセンター1階に「BankART SILK」、他にもカフェ／書店「BankART Home」や国道16号線沿いの東急東横線廃線跡を活用した「R16 Studio」をオープン。TPAM2019では、開館間もないBankART Stationをオープニング・レセプション／シンポジウムの会場

として使用した。また、BankART Studio NYKで実施していたグループ・ミーティングやスピード・ネットワーキングを、2017年に100周年を迎えた歴史的建造物であり公会堂として市民に親しまれている横浜市

	プロフェッショナル参加方法	一般参加方法
参加登録	オンライン登録（登録料 5,000円）	対象外
TPAMディレクション	プロフェッショナルレートで各演目、あるいは定額 4,000円で全演目をオンライン予約	チケットかながわ（KAAT神奈川芸術劇場での上演作品のみ）、Peatixにてチケット購入
	一部のプログラムは無料／予約不要	
TPAMエクステンジ	無料（グループ・ミーティングにホスト登録する場合は別途オンライン登録料 4,000～20,000円）	無料～当日 500 円（一部のプログラムは入場不可）
TPAMフリンジ	割引などの特典つきでオンライン予約	各公演の取り扱い先にてチケット購入

開港記念会館で3日間にわたり実施。シンポジウムやトークには、神奈川県住宅供給公社の協力を得て、同公社が自社ビル内に2018年4月にオープンした多目的スペース「Kosha33」2階のホールを使用した。また、Kosha33の1階には参加登録やチケット予約を受け付けるインフォメーションデスクを設置。隣接するカフェは参加者の自発的なミーティングやアーティストの交流に活用された。



横浜市開港記念会館

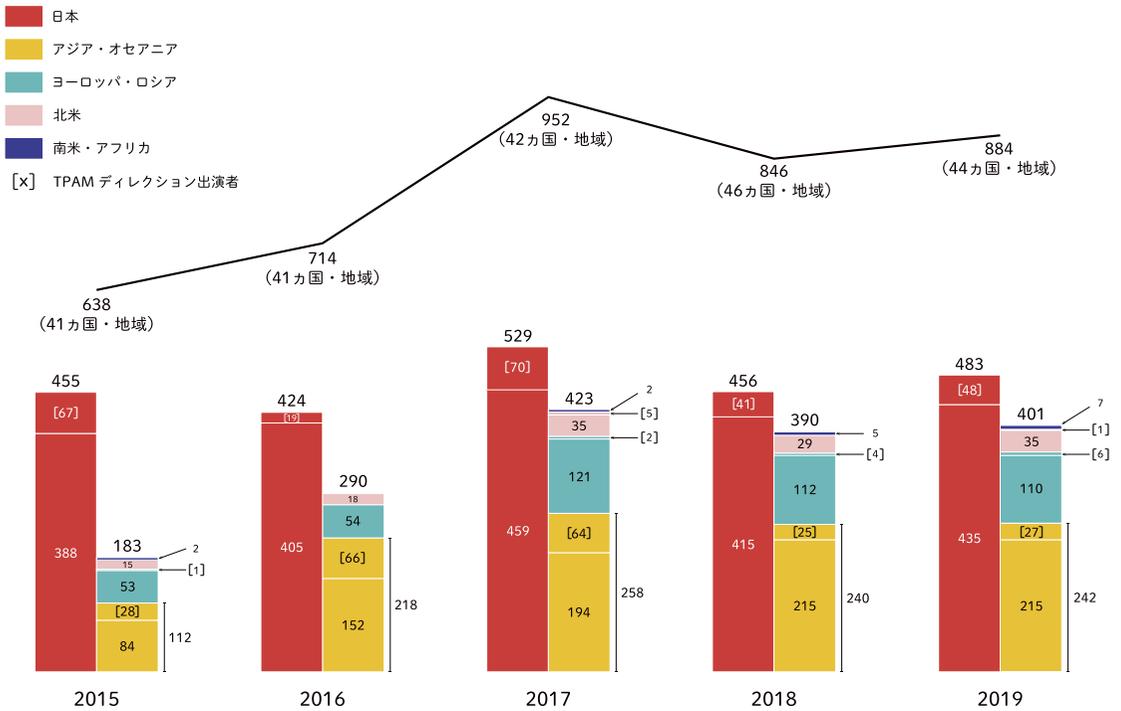


Kosha33

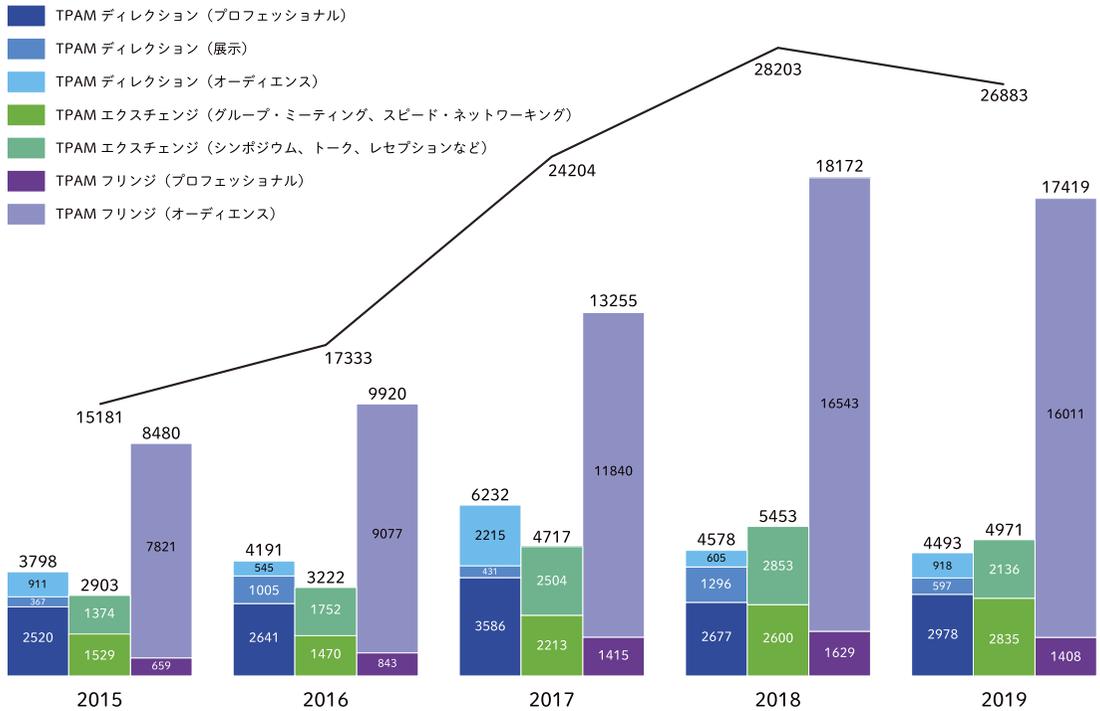
TPAMディレクションには、2018年のマレーシア総選挙における同国史上初の政権交代、シンガポールとマレーシアの植民地時代におけるマラヤ共産党史、1960年代インドネシアの「9月30日事件」とそれに続く共産主義者大量虐殺、「ポスト資本主義」時代における現代アートの取引といった関連性の高い作品が並んだ。そのうち3作品の国際共同製作にTPAMが参入したが、例えばマレーシアの歴史教科書問題を扱う『仮構の歴史』は、2016年に共同製作に参入しKYOTO EXPERIMENTをはじめヨーロッパ、アジア、オセアニア諸国をツアーした『Baling』の有機的展開であり、『Baling』自体も、草の根で展開していたプロジェクトがシンガポール芸術祭や韓国・光州の国立アジア文化殿堂によるオファーを通して成熟に至ったものである。TPAMはそれらの担当者たちと2000年代後半から緊密なネットワークを築いているが、このように共同製作、国内での上演、国際ツアーへの展開という形での取り組みが実現したのは、国際交流基金アジアセンターの設立と政府の掲げる「文化のWA（和・環・輪）プロジェクト～知り合うアジア～」に伴う予算拡大に負うところが大きい。同センターがコンセプトとして掲げる「Communicate」「Connect and Share」「Collaborate」「Create」の4つの「C」から成るモデルは、例えば交流→協働→納品→発信→報告といったリニアな進行・展開でなく、全ての段階が並存し循環する再帰的スパイラルを描いていることが特徴である。今回のTPAMでも、全プログラムを横断してアジア・フォーカスのさまざまなレイヤーとステージが共存していた。その総合的な評価と報告は方法論も含め今後の大きな課題である。

各プログラムの詳細については7頁以降を、メディア掲載などの一覧は26頁以降を参照されたい。

参加登録者数



来場者数

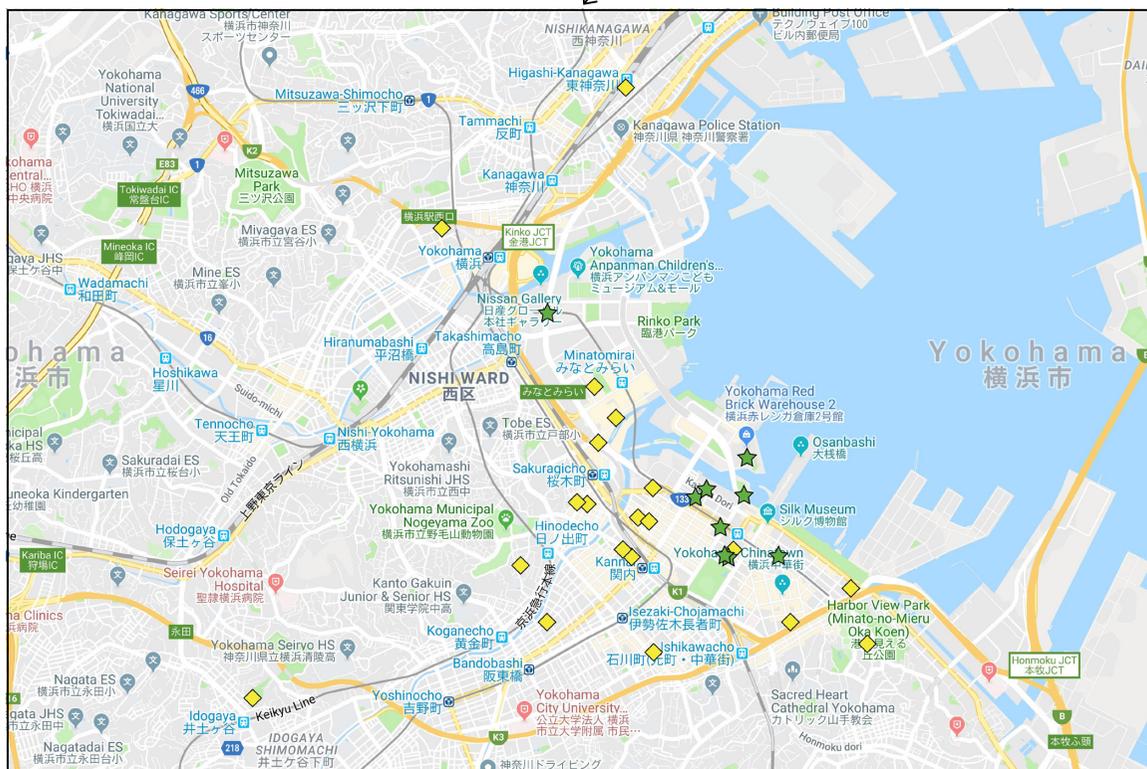
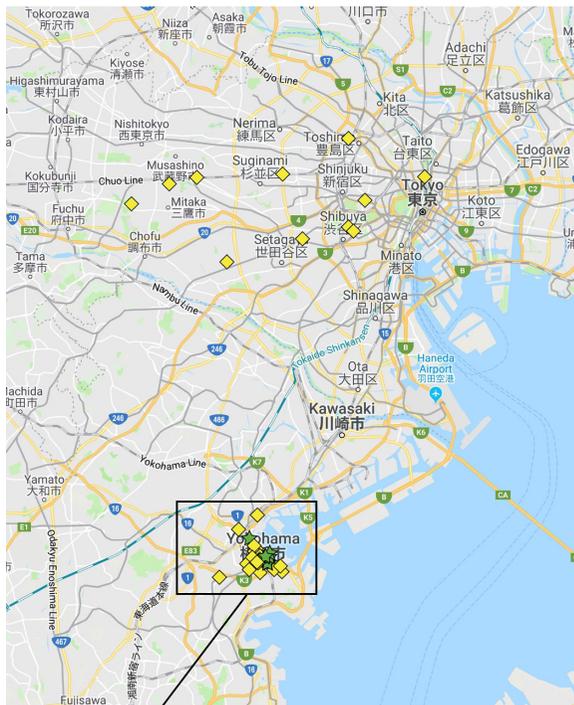


会場分布

	横浜会場	東京会場	合計
2015	19	10	29
2016	19	14	33
2017	21	17	38
2018	28	15	43
2019	30	11	41

*同会場内の複数のスペースが使われた場合、あるいは同会場が複数のプロジェクトに使われた場合、1会場として集計。

- ★ TPAM ディレクション、TPAM エクスチェンジ会場
(一部会場は TPAM フリンジでも使用)
- ◆ TPAM フリンジ会場





グループ・ミーティング会場（横浜市開港記念会館）



オープニング・シンポジウム1「日本の現代演劇—国境を越えて」
左から佐々木敦、平田オリザ、羊屋白玉、岡田利規、山本卓卓

TPAMエクステンジは、TPAMに参加する舞台芸術のプロフェッショナルが自由にテーマを設定し少〜中規模のカジュアルなミーティングを開催できる「グループ・ミーティング」、世界各地のプレゼンターと1対1で10分のミーティングができる「スピード・ネットワーキング」、パブリック・トークやシンポジウムなどから構成される交流プログラム。その主会場として親しまれてきたBankART Studio NYKの閉館に伴い、新たな会場でプログラムを再編した。

みなとみらい線新高島駅構内に新たに開館した1,000平米のスペースBankART Stationでは、オープニング・レセプション、および演劇とダンスの国際交流に焦点を当てたオープニング・シンポジウムを開催し、オープニング・イベントとして過去最多の参加者を得た。

市民に親しまれている歴史的建造物であり、講堂と定員10名から110名まで大中小の会議室を9部屋備える横浜市開港記念会館を、多数のセッションが同時並行するグループ・ミーティングとスピード・ネットワーキングで主に使用した（講堂はTPAMディレクション1演目を使用）。

パブリック・トークやシンポジウム（およびTPAM ディレクション1演目）には、神奈川県住宅供給公社ビル内に新規オープンした多目的スペース「Kosha33」2階のホールを使用した。また、開港記念会館、KAAT神奈川芸術劇場まで徒歩4〜6分という立地を活かし、1階にインフォメーションデスクを設置。同フ



オープニング・シンポジウム2「アジアのコンテンポラリーダンス—ヒエラルキーを越えて」
左からロウ・キーホン、篠崎由紀子、エコ・スプリヤント、ピチェ・クランチェン

ロアの「Kosha33カフェ」は非公式のミーティングや公演後の打ち上げで賑わった。

年々需要が増えているグループ・ミーティングについては、会期を従来の2日間から3日間に延長し、各ミーティングを30分から40分に延長。さらにミーティング終了後に参加者たちが交流を深めるための20分の時間を設けた。開放空間であったBankART Studio NYKと異なり、複数の会議室を用いることで、各部屋への映像設備の提供と音響的隔離が実現。ミーティングに映像プレゼンテーション、パフォーマンスや演奏を取り入れることも可能になった。また、1号室では交流の促進を目的にカフェを運営（およびTPAMディレクション関連トークを1件開催）。3日間で延べ3,000余りのプロフェッショナルが集まった。ミーティングのテーマの広がりやホストの顔ぶれについては10～14ページを参照されたい。

海外派遣団としては、ONDA（フランス芸術振興会）、CINARS、PAHN（Performing Arts Hub Norway）、国家文化芸術基金会、国家表演芸術センターがグループ・ミーティングに参加し、同会場でレセプションを開催。PAHNは、TPAM初の試みとなった朝食レセプションを開催し、午前の時間帯を有効に活用した。国家文化芸術基金会はTPAMフリンジにも参加（21ページ参照）。

派遣団	国/地域	人数
ONDA（フランス芸術振興会）	フランス、イギリス、ベルギー	19
CINARS	カナダ	9
PAHN（Performing Arts Hub Norway）	ノルウェー、フィンランド、アイスランド	9
国家文化芸術基金会	台湾	17
国家表演芸術センター		11

Photo by Hideo Maezawa



舞台芸術 AIR ミーティング
左から矢作勝義、アンジェラ・コンケ、キャサリン・リー

TPAMでは、2012年から2015年まで、現代美術から起こり舞台芸術の世界へも浸透しはじめていたアーティスト・イン・レジデンス（AIR）に関する「舞台芸術AIRミーティング」を開催した。AIR関連団体やAIRを経験したアーティストをヨーロッパ、北米、東アジア、東南アジアから招き、AIRの理念の考察、施設やプロジェクトの事例紹介、ショーイングなどを展開し、その成果は2016年以降のアジア・フォーカスのプログラムにもさまざまなレベルで反映されているが、今回、2011年に森下スタジオに新館をオープンしてレジデンス・プログラムを開始した公益財団法人セゾン文化財団との共催で、これを「舞台芸術AiRミーティング」として再開した。引き続きAIRという領域に関する情報共有と議論の活性化を図りたい。日本、韓国、台湾、オーストラリアのプロデューサーが2014年に立ち上げたAPP（Asian Producers' Platform）は、「APP キャンプ」を韓国（2014）、台湾（2015）、日本（2016）、オーストラリア（2017）、インドネシア（2018）で開催。インドネシアでは、それまで参加者だったメンバーが企画運営の中心となり、そ



Photo by Hideo Maezawa

Next Generation: Producing Performing Arts 2018



ON-PAM シンポジウム 第2部「なぜ国際コラボレーションなのか？」
 スピーカー-左奥からショーン・チュア、アルフィアン・サート、中村茜、多田淳之介

の報告と2019年のマカオ・香港・広州キャンプに向けてのディスカッションをTPAM2019で開催した。

「Next Generation: Producing Performing Arts」は、国際交流基金アジアセンターが主催する、アジアの舞台芸術を担う次世代のプロデューサー育成プログラム。TPAM2018に引き続き、参加者がTPAMのプログラムを横断的に体験し、ディスカッションを行なった。東南アジアと日本計6ヵ国からの10人のメンバーは、それまでに2ヵ国4都市で40作品以上の公演を共に観賞しており、その積み上げの上にTPAM2019でも活動を展開した。ON-PAM（舞台

芸術制作者オープンネットワーク）は、亜女会（アジア女性舞台芸術会議実行委員会）と全国小劇場ネットワークを例に、日本における民間組織の新たな動向や運営形態を議論。また、シンガポールの劇作家とドラマトウルク、日本の演出家とプロデューサーを招いて国際コラボレーションの意義を考察するシンポジウムを開催した。前回から提携事業として実施しているヨコハマアートサイト（横浜市地域文化サポート事業）の「アートサイトラウンジ」では、「場づくりとアートの営み」をテーマに、ワークショップの「ファシリテーション」についての事例紹介とディスカッションが行なわれた。

期間中レイトナイト・ミーティング・ポイントとして毎晩営業していたAmazon Clubでは、その日のプログラムについての議論やインフォーマルなネットワーキングが深夜まで続いた。会期の最後に交流の場を提供し、ボランティアやスタッフの労をねぎらうため例年開催するクロージング・パーティーは、今年は象の鼻テラスで開催。今回でTPAMディレクションのディレクター任期を満了した恩田晃氏に花束を贈呈し感謝を伝えた。



レイトナイト・ミーティング・ポイント
 左からティタ・サリナ、恩田晃

プログラム		登壇者	登壇者 拠点国・地域
APP (Asian Producers' Platform) キャンプ in インドネシア 報告会「APPの繋がりがもたらしたものと今後への期待」		奥田安奈 (A + K)、竹宮華美 (京都造形芸術大学舞台芸術研究センター)、目澤美裕子 (ダンスカンパニー Baobab / ゴーチ・ブラザーズ / Dance New Air 2018)	日本、米国
舞台芸術 AiR ミーティング	レクチャー「国内の最新のAIRの状況や運営のノウハウ」	水野立子 (NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク)、矢作勝義 (穂の国とよはし芸術劇場プラット)、横堀ふみ (NPO 法人 DANCE BOX)、稲村太郎 (公益財団法人セゾン文化財団)	日本
	シンポジウム「舞台芸術におけるAIRの新しい可能性を探る：事例発表 & オープンディスカッション」	アンジェラ・コンケ (ダンスハウス 芸術監督)、キャサリン・リー (台北国際芸術村 ディレクター)、村川拓也 (演出家)、水野立子 (NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク)、矢作勝義 (穂の国とよはし芸術劇場プラット)、横堀ふみ (NPO 法人 DANCE BOX)、久野敦子 (公益財団法人セゾン文化財団)	日本、オーストラリア、台湾

プログラム		登壇者	登壇者 拠点国・地域
オープニング・セレモニー/レセプション/シンポジウム	シンポジウム1: 日本の現代演劇—国境を超えて	平田オリザ (劇作家/演出家/青年団)、岡田利規 (演劇作家/小説家/チェルフィッチュ)、羊屋白玉 (演出家/劇作家/俳優/指輪ホテル/巫女会)、山本卓卓 (劇作家/演出家/範宙遊泳/ドキュメント)、佐々木敦 (批評家/ HEADZ)	日本
	シンポジウム2: アジアのコンテンポラリーダンス—ヒエラルキーを超えて	ピチェ・クランチェン (振付家/ダンサー/ピチェ・クランチェン・ダンスカンパニー)、エコ・スプリヤント (振付家/ダンサー/エコスダンス・カンパニー)、篠崎由紀子 (振付家/パフォーマー/fieldworks)、ロウ・キーホン (西九文化区)	タイ、インドネシア、香港、ベルギー
ARTWAVE 台湾レセプション		ARTWAVE	台湾
エコ・スプリヤントの三部作: 『Cry Jailolo』『Balabala』から『ソルト』まで		エコ・スプリヤント、丸岡ひろみ (国際舞台芸術ミーティング in 横浜)	日本、インドネシア
PAHN (Performing Arts Hub Norway) 朝食レセプション		PAHN (Performing Arts Hub Norway)	ノルウェー、フィンランド、アイスランド
アーティストサロン & レセプション		ONDA, Flanders Arts Institute, Artsadmin	フランス、ベルギー、英国
ケベック (カナダ) の舞台芸術カンパニー紹介とレセプション		CINARS	カナダ
舞台芸術制作者オープンネットワーク (ON-PAM)	第1部: 創造的な連携のための、ゆっくりでゆるいオーガナイズ	羊屋白玉、野村政之 (演劇制作者/ドラマトゥルク/全国小劇場ネットワーク)	日本
	第2部: なぜ国際コラボレーションなのか?	アルフィアン・サート (劇作家/劇団ワイルドライス)、ショーン・チュア (ドラマトゥルク/研究者)、多田淳之介 (演出家/東京デスロック)、中村茜 (パフォーミングアーツ・プロデューサー/ (株) precog)	日本、シンガポール
Next Generation: Producing Performing Arts 2018		フランチェスカ・カサウアイ (クリエイティブ・プロデューサー/HERESY)、グレイ・ヨー (ナショナル・ギャラリー・シンガポール)、ネス・ロケ (シパット・ラヴィン・アンサンブル)、リン・ファム (Mat Tran Ensemble)、野崎美樹 (NPO 法人スローレーベル)、パーウィニー・サマックブット (デモクレイジー・シアター・スタジオ)、ピライパン・タンマミット (インディペンデント・プロデューサー)、レナン・ラルアン (リサーチチャー/キュレーター/フィリピン・コンテンポラリーアート・ネットワーク)、タナノップ・カーンチャナウティシット (デモクレイジー・シアター・スタジオ)、タウフィック・ダルウィス (バンドウン・パフォーミング・アーツ・フォーラム)	日本、インドネシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム
アートサイトラウンジ「場づくりとアートの営み」		荻野亮一 (社会学研究者)、青木拓磨 (音楽家/かたるべハッピーザ)、渡邊梨恵子 (一般社団法人谷中のおかって)	日本
グループ・ミーティング テーマ		ホスト拠点国・地域	
地域を題材にしたパフォーミングアーツ: なんごう小さな芸術祭 (八戸市) の紹介		日本	
shelf 『Hedda Gabler』 中国 5 都市村ツアー公演 2018 報告会		日本、中国	
国家表演芸術中心 (NPAC) - コンテンポラリークリエイションとアーティスト交流のためのプラットフォーム		台湾	
フェスティバル / トーキョーのご紹介		日本	
HOTPOT 東アジア・ダンスプラットフォーム		日本、香港	
TR ワルシャワ劇場とアダム・ミツキエヴィッチ・インスティテュートの国際共同製作について		日本、ポーランド	

グループ・ミーティング テーマ	ホスト拠点国・地域
アーツカウンシル東京の助成プログラムのご紹介	日本
アジア文化の演劇交差点	韓国
セゾン・アーティスト・イン・レジデンス	日本
沖縄県那覇市「アトリエ銘苅ベース」のご紹介	日本
Tokyo Tokyo FESTIVAL 助成のご紹介	日本
新興、適応変化する舞台芸術のプラットフォーム	日本、オーストラリア、台湾、タイ
アジア-ヨーロッパ財団(ASEF) アンブラグド - #Tokyo2020 を超えて:日本の文化的協力の方法は?	日本
アートウェーブ・トーク:ザ・ソングス	台湾
KIAC アーティスト・イン・レジデンス プログラム 2020	日本
舞台芸術と女性の声	日本、韓国、マレーシア
アーキタンツ アーティスト・サポート・プログラムの報告と今後	日本
沖縄で作品をつくることの魅力ってなんだろう?	日本
舞台芸術界のセクシュアル・ハラスメントや性暴力について一緒に考えませんか?	日本
アノニマス・ボディ 弘前プロジェクトの紹介と今後の滞在制作活動の可能性について	日本、メキシコ
ノルウェー出身アーティストと、ノルウェー、フィンランド、アイスランドの北欧諸国の団体のご紹介	フィンランド、アイスランド、ノルウェー
Washi+Performing Arts? Project のこれまでとこれから	日本
東南アジアからみたパフォーマンス創作	マレーシア、タイ、インドネシア
「無音」のダンス作品『SHGZR-0dB』について	日本
2019 ウォント・トゥ・ダンス・フェスティバル	台湾
日本におけるベイビードラマの実例紹介~乳幼児向け演劇の挑戦	日本
新たな中国ダンスプロジェクト	中国
国際的コラボレーションにおけるヒエラルキーの打破	日本、台湾、マカオ、オーストラリア
「あいちトリエンナーレ 2019 情の時代」について	日本
アーツコミッション・ヨコハマ助成プログラムのご紹介	日本
中国現代演劇シーンの紹介と、海外アーティストにとっての中国公演の意義と価値	日本、中国
TPAC - 日常、トランスローカル、現代社会を演じる	台湾
2019 年以降のオーストラリアのダンスをキュレートする	オーストラリア
セゾン文化財団の助成プログラムについて	日本
台本そのものが語るもの?	タイ

グループ・ミーティング テーマ	ホスト拠点国・地域
東南アジアの演劇フェスティバルをキュレーション	シンガポール
アーティストサロン：フランス、ベルギー、イギリスからのコンテンポラリーアーティストとのミーティング	フランス、ベルギー、英国
舞台芸術管理研修プラットフォーム	中国
国際交流基金の助成プログラムの紹介	日本
(再) 考スペース	タイ、インドネシア、ベトナム
意思のチャネリング-ヒーリング、パフォーマンスアート、マーシャルアーツのなかのエネルギー	ドイツ
アジアの舞台芸術制作者／ネットワーク／プラットフォームとの連携について	日本
[Open Studio] アートウェーブ・ワークショップ：今、ここでどのように南管の歌を歌えるか	台湾
ヨーロッパとアジアの架け橋 - ナルバ劇場	エストニア
BODY BEYOND BORDERS 上海／ソウル／東京のしぐさから生まれるパフォーマンス	日本
アーティストと社会的空想家：必要とされるモノローグ	フィリピン
[Open Studio] アートウェーブ・ワークショップ：母語が引き起こす身体のコメンタム	台湾
東京芸術劇場がもくろむ今後のヴィジョン	日本
温泉街のアーティスト・イン・レジデンス：城崎国際アートセンター（KIAC）の紹介	日本
教育、コミュニティ、社会におけるパフォーマンスアート	日本、マレーシア、ベトナム、スコットランド
ケベック（カナダ）の児童演劇に関して	カナダ
[Open Studio] “私もフリーダです”～an informal showcase and a talk～	日本、メキシコ
アジア芸術メディア円卓会議（AAMR）	シンガポール
“東京芸術祭” これまでとこれから	日本
B-フロア、タイにおける現代舞台芸術シーンの20年／無くして見つけた教訓	タイ
ヨーロッパとアジアの間のオープン・スペースについて話そう	エストニア
[Open Studio] 2018 年度 JCDN 国際ダンス・イン・レジデンス・エクステンジ・プロジェクト vol.8 日本／香港 共同制作	日本
アートウェーブ・トーク：発表とネットワーク構築の異なる状況	台湾
シアターコモンズ'19 コンセプトとプログラム	日本
都市、リサーチ、(パフォーマンス) アートのグラデーション	日本
『マライの虎』のリメイク	日本、シンガポール
[Open Studio] 指輪ホテル新作『バタイユのバスローブ LA ROBE DE CHAMBRE DE GEORGES BATAILLE』の打ち合わせを公開します	日本
「ふじのくににむせかい演劇祭 2019」、「ストレンジシード静岡 2019」の開催について	日本

グループ・ミーティング テーマ	ホスト拠点国・地域
演劇についての新たな考察 - シュテファン・シュミトケを迎えて	ドイツ
TPAM で出会った豪日アーティスト国際交流プロジェクト実施報告と今後の発展	日本、オーストラリア
[Open Studio] ケベック (カナダ) の舞台芸術カンパニー紹介とレセプション	カナダ
瀬戸内から動く現代サーカス～日本初の創造拠点 SHIONO-AIR 始動	日本
チェルフィッチュ 2019 年新作の構想	日本
スピード・ネットワーキング ホスト	ホスト拠点国・地域
Agata Kolacz (TR Warszawa)	ポーランド
Gwen Hsin-Yi Chang (National Kaohsiung Center for the Arts)	台湾
Luiz Felipe Reis (Festival Cena Brasil Internacional)	ブラジル
Randal Miller (Pittsburg Cultural Trust)	米国
横山義志 (SPAC - 静岡県舞台芸術センター／東京芸術祭直轄事業)	日本
吉田雄一郎 & 橋本麻希 (城崎国際アートセンター)	日本
Chris Vaughan (33-33)	英国
Ekaterina Alekseenko (Meyerhold Theatre Centre)	ロシア
Marta Keil (East European Performing Arts Platform)	ポーランド
Mateo Feijoo (Naves Matadero)	スペイン
Stephen Armstrong (Asia TOPA)	オーストラリア
佐藤泰紀 (ST スポット)	日本
Austin Wang (台北舞台芸術センター)	台湾
Gita Hastarika (Kelola)	インドネシア
Jeff Khan (Performance Space)	オーストラリア
Marijke De Moor (Flanders Arts Institute)	ベルギー
矢作勝義 (穂の国とよはし芸術劇場)	日本
Stefan Schmidtke (Theater der Welt)	ドイツ
河合千佳 (フェスティバル / トーキョー)	日本
Emily Sexton (Arts House)	オーストラリア
Feng-Chih Tsou (台北国立劇場)	台湾
Francisco Frazão (Teatro do Bairro Alto)	ポルトガル
内藤美奈子 (東京芸術劇場)	日本
塩谷陽子 (Japan Society)	米国
Lynn Fu (Great Theatre of China, Shanghai)	中国

スピード・ネットワーキング ホスト	ホスト拠点国・地域
Norman Armour (Australia Council for the Arts)	カナダ
Olga Gutiérrez (Laboratorio puntoD)	メキシコ
Rebecca Kezia (Komunitas Salihara)	インドネシア
Sven Åge Birkeland (BIT Teatergarasjen)	ノルウェー
里見有祐 (公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)	日本
岡本あきこ (フリーランス・キュレーター)	ドイツ
Grzegorz Reske (Performing Arts Institute)	ポーランド
Karima Mansour (MAAT for Contemporary Art & Cairo Contemporary Dance Center)	エジプト
Kristiina Reidolv & Inga Koppel (Performing Arts Centre Vaba Lava [Open Space])	エストニア
宮内奈緒 (りっかりっか*フェスタ)	日本
藤田直義 (高知県立美術館)	日本



『退避』



『カセット100』

TPAMディレクションは、今年もKAAT神奈川芸術劇場のホール、大スタジオ、中スタジオ、アトリウムを中心に展開。これまで同様、スペースの提供にとどまらずスタッフや機材の全面的協力を得て、実験的なプログラムを高い水準で実現した。他に、横浜市開港記念会館講堂とmass × mass 関内フューチャーセンターで1演目、Kosha33と日本大通りの路上で1演目を上演した。

TPAMが「マーケット」から「ミーティング」に改称した2011年に、日本の若手舞台芸術制作者を公演プログラムのゲストディレクターとして招き（任期は原則3年間）、集客ノルマに拘束されずにプログラミングの実験を行なう機会を提供する場として開始したプログラムだが、アジア・フォーカスを打ち出したTPAM2015でタン・フクエン氏（当時インディペンデント・ドラマトゥルク、現在台北芸術祭芸術監督、シンガポール）をゲストディレクターの一人として迎えて以降は、コ・ジュヨン氏（プロデューサー、韓国）、恩田晃氏（サウンド・アーティスト／キュレーター、米国）、ジュン・タン氏（ファイブ・アーツ・センター プロデューサー、マレーシア）、マックス＝フィリップ・アッシュエンブレンナー氏（ルールトリエンナーレ ヘッド・ドラマトゥルク、ドイツ）が新たに加わり、TPAM2018では唯一の日本拠点のゲストディレクターとなった加藤弓奈氏（急な坂スタジオ ディレクター）が任期を満了。今回は全てのゲストディレクターが海外拠点となった。

一方で、今年は10演目中6演目がゲストディレクターを介さない事務局によるキュレーションとなった。これは、隔年での参加を希望したコ氏が今年是不参加だったこと、恩田、タン、アッシュエンブレンナー各氏の提案が大規模なセットや複雑な準備プロセスを要するものだったこと、そして彼らの提案した演目をつなぐコンセプチュアルな連関を事務局による言わばメタ・キュレーションにより可視化することが望ましいと思われたことによる。

1年目、2年目はTPAMのアジア・フォーカスの文脈における音楽プログラムの可能性を探り、3年目をフィリピンの作曲家ホセ・マセダに関するリサーチと中間報告に使った恩田氏は、フィリピン大学民族音楽学研究所の協力を得ての本格的なマセダ・プログラムで任期を締めくくった。

『カセット100』は、100人の演奏者がカセットプレーヤーを持って空間を練り歩くパフォーマンス的な音楽作品。100台のカセットプレーヤー（入手困難のため、近年はMP3プレーヤーなどで代用されることが多いが、今回は100台中約20台をカセットプレーヤーとした）からはマセダが採集したフィリピンの様々な民族音楽が流れ、壮大なサウンドスケープが作り出される中、観客も自由に回遊してよい。KAAT神奈川芸術劇場の吹き抜けのアトリウムを1971年にこの曲が初演されたマニラのフィリピン文化センターのロビー

に見立て、公募で集まった100人のボランティア演奏者が東野祥子、カジワラトシオ（ANTIBODIES Collective）の「振付」により1階から5階までを縦横に移動しながら「演奏」。トイレットペーパーを用いて空間をカオティックに変容させた初演の演出へのオマージュを込めた美術も効果的だった。

『5台のピアノのための音楽』（1993）と『2台のピアノと4本の管楽器』（1996）は、日本人ピアニスト、高橋アキの依頼により書かれた晩年のピアノ曲。特に『5台〜』はピアノを5台集めるというハードルの高さのため演奏機会が少ないが、株式会社



『5台のピアノのための音楽』

ヤマハミュージックジャパンの多大な協力を得て、ヤマハ最高峰のピアノ「CFX」が5台揃った。高橋アキ、高橋悠治というマセダにゆかりの深い演奏者に加え、寺嶋陸也、入川舜、佐藤祐介という世代もキャリアも多様なピアニストが集まり、マセダを知り尽くしたジョセフィーノ・チノ・トレド指揮での演奏を実現。この2つのコンサートは、後日音楽批評誌「メルキュール・デザール」の2019年年間企画賞第2位に選ばれた（第1位は「ダ・ヴィンチ音楽祭 in 川口 vol.1」）。

西洋近現代音楽のパラダイムから脱却し、民族音楽のフィールドワークを通して新たなアジアのパラダイムを構築しようとしたマセダの活動を象徴する『カセット100』は、マルコス政権下での「民衆／国民」の表象にアイロニカルに寄与したとも言われる（その多重性と逆説性を考察することが恩田ディレクションの狙いの一つであり、そのための資料集も配布した）。一方、ジューン・タン・ディレクション『GE14』は、2018年5月に建国以来初の政権交代を実現したマレーシア総選挙で野党連合から出馬し当選したパフォーマー／政治家、ファーム・ファジールの選挙演説をパフォーマンス化した作品（「GE14」は「第14回総選挙」の意）。ファジールの旧友である振付家、山下残が彼の選挙活動を密着取材し、前半は山下によるその報告、後半はファジール本人とゲスト「応援」演説者として音楽家の灰野敬二を招き、日本大通り路上にマレーシア選挙活動風のカラフルな仮設舞台を立てての演説パフォーマンスという構成となった。

タン氏は前回のTPAMディレクションで連続シン



『GE14』第2部



『仮構の歴史』

による新作で、TPAMが2016年に共同製作した同カンパニーの『Baling』の素材（元マラヤ共産党員のインタビュー映像）とマレーシア第14回総選挙による政権交代後の歴史教科書改定を結びつける内容になった（実質的にTPAMによるファイブ・アーツ・センターへの新作委嘱となったため、タン氏個人の自由なプログラミングであるべきジューン・タン・ディレクションとは敢えて区別した）。『GE14』『仮構の歴史』はともに、TPAMとファイブ・アーツ・センターによる共同製作。創作と同時に進行している社会事象を直接扱った文字通りのワーク・イン・プロGRESSが、今後どのような形に結実するか、あるいはテが上演前の挨拶で示唆したようにワーク・イン・プロGRESSのまま状況を映し続けるのか、興味は尽きない。

TPAM2018での『一頭あるいは数頭のトラ』の好評に続き、マックス＝フィリップ・アッシュエンブレナー・ディレクションとして紹介したホー・ツーニエン（シンガポール）『神秘のライ・テク』は、ドイツ、韓国、オーストラリア、オランダ、ベルギー、中国のフェスティバルや劇場とTPAMとの共同製作。ドキュメンタリー的な『仮構の歴史』とは対照的に、ホーは同じマラヤ共産党の歴史に虚構と現実の境界を曖昧化・多層化するスタイルで取り組み、アンドロイドによる疑似自伝的モノログとして作品化した。『Baling』『仮構の歴史』のインタビュー映像には元マラヤ共産党書記長チン・ベンが登場するが、チン・ベンの前代書記長ライ・テクは、フランス、英国、日本の諜報機関とつながる三重スパイで、30を超える偽名を使い分けたと言われる。何重ものヴェール（文字通りのカーテンの上に、さらにカーテンの映像が投影される）の向こうに座っているアンドロイドの顔に、別の顔がプロジェクターで投影され、アイデンティティが複数化する。ホーの作家性をよく伝える上演となり、国際交流基金アジアセンターが山口情報芸術センター（YCAM）や東京芸術劇場、さらに東南アジア各地で展開しマーク・テがキュレーターを務めた展示『呼吸する地図たち』への参加、あいちトリエンナーレ2019豊田会場でのインスタレーション『旅館アポリア』の成功などへとつながっていったことも特筆される。



『神秘のライ・テク』

以上が今回のゲストディレクター3名の提案による演目とその関連作品で、その他の演目については、これらの間隙を縫う／つなげるようにして事務局がキュレーションを行なった。

TPAM2015で範宙遊泳とコラボレーションしたデモクレイジー・シアターのタナポン・ウィルンハグン(タイ)による『退避』は、未知、危険、無用とされる事物や他者からの「退避」の身振りを振付の原動力とするというユニークな振付リサーチプロジェクト。シンガポール、クアラルンプールでの現地ダン

Photo by Hideo Maezawa



『退避』

サーとのワークショップを経て、2018年にバンコクの劇場とギャラリーで「上演」されたが、必ずしも上演を目的とするプロジェクトではなく、発端は振付スコア出版の構想だった。今回は公開ワークショップとして、タイと日本からそれぞれダンサー3名が参加して実施。TPAM2016でゲストディレクターとして「ダンスアーカイブボックス」をプログラムしたダンス研究者/ドラマトウルクの中島那奈子氏をドラマトウルクに迎えた。KAAT中スタジオで5時間のワークショップを3日間連続で実施し、隣接する小スタジオでは「退避」のコンセプトを伝

えるドキュメンテーションの展示を開催。度重なるクーデターによる民衆の分断の歴史をも思わせる「退避」の身体性が探求され、暴力的なインパルスがユーモアに転じるような思いも寄らない動きが生まれる瞬間があり、ダンスに精通したプロフェッショナルをも驚かせた。このプロジェクトの今後を注視していきたい。

北京出身・ノルウェー在住の新人アーティスト、ジンイ・ワンによる『ポスト資本主義オークション』は、「金銭」以外に「理解」「機会」「交換」(ピエール・ブルデューの概念「経済資本」「文化資本」「社会資本」「象徴資本」から着想)でも入札できる現代美術オークション。オークションのパフォーマンス性を活用した舞台作品であると同時に、実際に作品がやりとりされる本当のオークションでもある。

舞台芸術の国際的プラットフォームでの開催ということで、英国随一の実験劇団フォースド・エンタテインメントを主宰しながらヴィジュアル・アーティストとしても高く評価されるティム・エッチェルス、2018年に熊本市現代美術館で「映像演劇」の展示を発表した岡田利規を出品者として迎え、現代美術の領域からは岡崎乾二郎、真鍋大度、BCL/ゲオアグ・トレメル & 福原志保を迎えた。出品作品自体が、落札者に施される刺青、音に対する脳の反応のブレイン・デコーディング、出品者の制作活動への落札者の参与、初音ミクのDNAを組み込んだ人工心筋細胞の鼓動、HeLa細胞により撮影された写真、そして「映像演劇」と極めてコンセプチュアルなものになり、大切な詩集との「交換」、聴覚障害者による「理解」、制作や展覧会の「機会」、あるいは出品作品に関する小説の執筆、著作権に関する法律相談の提供など多様な「入札」が行なわれ、アートの価値と貨幣経済の関係を問い直す遊戯的・演劇的なイベントとなった。オークション後にはキュレーター、批評家、編集者、コレクターを交えて「価値」の概念を考察するディスカッションを開催。Dommuneでライブ配信を実施し、美術系の雑誌やメディアでも多く取り上げられた。



『ポスト資本主義オークション』

エコ・スプリヤント(インドネシア)の『ソルト』は、『Cry Jailolo』(タン・フクエン・ディレク

Photo by Hideo Maezawa



『ソルト』

きたことは、TPAMのアジア・フォーカスの大きな成果の一つとなると思われる。

「非本質的トランスジェンダリズム」を標榜する日本在住のDJ/アーティスト、**テリ・テムリツ**（米国）は、ドクメンタ14（2017）の委嘱で作った「アンチライブ・オーディオヴィジュアル・パフォーマンス」『**不産主義**』で参加。「子を持つことは非倫理的である」「家族は民主主義を不可能にする」というドグマから展開し、資本主義における文化的・生物学的再生産のイデオロギーを非妥協的に批判する映像作品と、テムリツ自身によるその上映行為（スクリーン脇で機材を操作するという意図的にパフォーマンスの低い「パフォーマンス」）、およびQ&Aから成る作品で、透徹した論理と視覚的・音響的美学が多くのプロフェッショナルに衝撃を与えた。TPAM2018で紹介した『ソウルネスレス』とともに、実験音楽、現代美術、舞台芸術の境界を超えた複数のオファーにつながっているようである。



『不産主義』

イルワン・アーメットと**ティタ・サリナ**（インドネシア）は、ヴィジュアル・アーツ、パフォーマンス、インターヴェンションなど様々な手法で社会問題をワイルドかつ非挑発的に扱うアーティスト。常に協働しつつ、作品はそのつど連名あるいはいずれか1人の名義となる。アーメット名義での作品として、日本の研究者をゲストスピーカーに迎えて上演したレクチャー・パフォーマンス『**暴力の星座**』が今年最後の演目となった。1965年に「9月30日事件」で火蓋を切ったインドネシアの共産主義者の大量虐殺に関する新作で、2018年に事件が起こった日時（10月1日の早朝3時）に合わせジャカルタの映画館で初演されている。このサイト/タイム・スペシフィックなコンセプトを日本に持ち込むことは不可能だったが、学生運動から9月30日事件研究に到る個人史やASEAN設立反共主義の関係についてのゲストスピーカーの導入スピーチ、そしてマラヤ共産党史や資本主義批判、暴力や反動をめぐるTPAMディレクションの他演目との直接間接の関係がこの上演を文脈化することになり、プログラム全体として高い評価を得た。



『暴力の星座』

アーティスト	演目	会場	拠点国・地域	
タナポン・ウィルンハグン	退避 (ワーク・イン・プログレス 公開ワークショップ)	KAAT 神奈川芸術劇場 中スタジオ	タイ	
東野祥子、カジワラトシオ (ANTIBODIES Collective)	カセット 100 (ホセ・マセダ作曲、1971)	KAAT 神奈川芸術劇場 アトリウム	日本 フィリピン	
ジョセフィーノ・チノ・トレド、 高橋アキ、高橋悠治、寺嶋陸也、 入川舜、佐藤祐介、田中香織、 笹崎雅通、有馬純晴、村田厚生	5 台のピアノのための音楽 2 台のピアノと 4 本の管楽器 (ホセ・マセダ作曲、1993 / 1996)	KAAT 神奈川芸術劇場 ホール		
ジンイ・ワン	ポスト資本主義オークション	内覧会	中国 ノルウェー	
		オークション		横浜市開港記念会館
		ディスカッション		mass × mass 関内 フューチャーセンター
ホー・ツーニエン	神秘のライ・テク	KAAT 神奈川芸術劇場 大スタジオ	シンガポール	
エコ・スプリヤント	ソルト	KAAT 神奈川芸術劇場 ホール	インドネシア	
テーリ・テムリツ	不産主義	KAAT 神奈川芸術劇場 大スタジオ	日本	
ファーム・ファジール+山下残	GE14	Kosha33、日本大通り	日本 マレーシア	
ファイブ・アーツ・センター	仮構の歴史 (仮題、ワーク・イン・プログレス)	KAAT 神奈川芸術劇場 中スタジオ	マレーシア	
イルワン・アーメット	暴力の星座	KAAT 神奈川芸術劇場 大スタジオ	インドネシア	



公募プログラムとしてのアイデンティティをより明確にするため、「TPAMショーケース」から「TPAMFRINGE」へと改称し3年目、今年は52のアーティスト／団体（うち海外登録数6）が登録した。登録数に関しては、改称した2017年に大幅な増加を記録して以降、そう大きな変化は見られない。事務局では毎年、The CAVEやBUKATSUDOなどの横浜の民間施設をTPAMFRINGE登録希望者に紹介しているが、TPAMFRINGE参加団体の多くが普段利用しているような、いわゆる「小劇場」的な施設は、横浜にはそう多くない。公演に適した会場が見つからず参加を断念したという声もある。今後、TPAMFRINGEの更なる拡大、登録数の増加を目指すとするれば、横浜市の公共施設やホールとの連携を積極的に図っていく必要があると思われる。

従来通り、TPAMに参加するプロフェッショナルには登録公演の情報をプログラム冊子やインフォメーション・デスクで提供し、一般観客に向けてはいわゆるFRINGE・フェスティバルとしての認知向上を狙って全演目をリストしたチラシを公式プログラムとは別途作成、関東圏の公演や関連施設を中心に折り込みや配架を行なった。

2016年からTPAMディレクションで音楽プログラムを展開していた恩田晃氏の協力を得て実験音楽プログラムを積極的に誘致してきた影響もあって、演劇やダンスの枠に収まらないユニークなパフォーマンス性を備えた作品のFRINGE登録が増加している。恩田氏は今期をもってゲストディレクター任期満了となるが、実験音楽プログラムは国内外のTPAM参加者からの需要も高く、国内の多様なパフォーミング・アーツ・シーンを紹介する場としてTPAMがどのようなアプローチを仕掛け誘致していくべきか検討したい。

	2015	2016	2017	2018	2019
登録数	35	36	53	55	52
海外登録数	0	2	8	8	6
演目数	51	46	60	72	59
公演数	143	219	243	260	250
横浜会場数	17	16	20	24	25
東京会場数	10	14	17	15	11

今回、Co. 山田うん『いきのね』がTPAMフリンジ登録公演としてKAAT神奈川芸術劇場ホールで上演された。同会場でのTPAMディレクションの演目（エコ・スプリヤント『ソルト』）直後に、ホールのステージに本物の土を敷き詰めての大規模な仕込みを伴うこの公演がフリンジ枠で上演されるという異例の状況となったが、運営側にも参加者側にも特に混乱は見られず、KAATでのTPAMディレクションとTPAMフリンジの共存が可能であることが実証された。今後の展開の参考にしていきたい。



「ARTWAVE」イメージ

昨年に引き続き参加した国家文化芸術基金会（台湾）は、今回「オーガナイザー登録」枠を活用し、「ARTWAVE」と題した企画でリン・チーウェイとワン・ホンカイによる『声呼び覚ます』、チェン・インジェンとリン・イーゼンによる『複数の連続体』の2演目を上演した。後者は神奈川県との協力を得て、「共生共創事業」として県民共済みらいホールで上演された。オーガナイザー登録は、複数の団体が参加する企画やフェスティバルなどをその主催者が登録できるようにすることで、「フリンジ」という枠組みの拡大と多様化を目指し一昨年設置した登録枠だが、それがこのように公的な文化機関の国際交流につながったことは大きな成果である。

オーガナイザー登録枠では、目澤芙裕子氏のキュレーションによる国内若手振付家／カンパニーのショーケース企画「Contemporary Dance Showcase of Young Choreographers」も国内外のTPAM参加者から好評を得た。国内の若手アーティストによる作品を紹介すると同時に、目澤氏自身も海外のプラットフォームに招聘されるなど、プロデューサー／キュレーターとして認知される機会にもなり、新たな活動展開に繋がっているようである。



「Contemporary Dance Showcase of Young Choreographers」

また、今年も横浜ダンスコレクションのプログラム（「コンペティションI」「青空ダンス」「ダンスクロス」）を提携事業としてフリンジ枠で紹介した。来年は香港、ソウルでの開催に続く「第3回HOTPOT 東アジア・ダンスプラットフォーム」の開催が横浜で予定されており、ダンス関係者からの関心がより一層高まることが予想される。TPAMとしてもより一層の連携を図っていきたい。

アーティスト／オーガナイザー ／プロジェクト	演目	会場	拠点国・地域
東京造形大学 映画・映像専攻 Dance and Media Japan NPO 法人ダンスアーカイヴ構想	国際ダンス映画祭「身体が残る。」in TPAM	横浜赤レンガ倉庫1号館 2FスペースA	日本
ICU モダンダンス部	生産性・愛・身体	国際基督教大学 ディップフェンドルファー記念館 オーディトリウム	日本

アーティスト／オーガナイザー ／プロジェクト	演目	会場	拠点国・地域
blanClass Anthology #4	高山玲子『ハイツ高山』	blanClass	日本
	真島竜男『山と群衆（大観とレニ）／ 四つの検討（TPAM 2019 version）』		日本
mizhen	渋谷区神宮前4丁目1の18	ピラ青山	日本
横浜ダンスコレクション2019	青空ダンス	横浜赤レンガ倉庫 屋外 広場	日本
	コンペティションI	横浜赤レンガ倉庫1号館 3Fホール	日本、韓国、他
	ダンスクロス：ナッシュ『Cellule』 鈴木竜『AFTER RUST』		日本、フランス
お布団	破壊された女	長者スタジオ	日本
かもめマシーン	しあわせな日々	The CAVE	日本
ニブロール	悲劇のヒロイン	東京芸術劇場シアター ウエスト	日本
Unit Dance Bookshelf / 吉福敦子	スフィンクスの絵本～若葉町バージョン～	若葉町ウォーフ	日本
フルタ丸	梟の服	Archishop Library & Café	日本
S T スポット セレクション vol.2	隣屋『あるいはニコライ、新しくてぬ るめるした屍骸』	S T スポット	日本
	ハイドロプラスト『幽霊が乗るタク シー』		日本
	Aokid『"PlayMapCity"を広げる会』		日本
岡崎藝術座	レクチャーパフォーマンス『いいかげ んな訪問者の報告（アサード・おにぎ り付き）』	CASACO	日本
富山のはるか	サロメ	ギャルリー・パリ	日本
鮭スベアレ	鮭スベアレ版『マクベス』	ゲート座	日本
RE/PLAY Dance Edit 実行委員会	国際共同制作『RE/PLAY Dance Edit』 東京公演	吉祥寺シアター	日本、シンガポ ール、カンボジア、 フィリピン
タシロリエ / AYATORI	MIRRORS	象の鼻テラス	日本
富士山アネット	霧の國	THE HALL YOKOHAMA	日本
トポス 石井順也、パウ・アラン・ジメ ーノ、小暮香帆、尾角典子	ノート・オン・ライブ	YCC ヨコハマ創造都市 センター 3F	日本、スペイン
BRDG / したため	BRDG『通信ノート』 / したため『文体 練習』	若葉町ウォーフ	日本
佐々木すーじん / 野口英律 / 浦裕幸	Sound Sample Market vol.1	Archishop Library & Café	日本

アーティスト／オーガナイザー ／プロジェクト	演目	会場	拠点国・地域
カンパニーデラシネラ	見立てる	横浜にぎわい座 のげ シャーレ	日本
空間現代	オルガン	The CAVE	日本
IDIOT SAVANT theater company	日本国憲法	yoshidamachi Lily	日本
Contemporary Dance Showcase of Young Choreographer	北尾亘 (Baobab) デルトーカ 『笑う 額縁 あなたのせいで死ねない』	YCC ヨコハマ創造都市 センター 3F	日本
	下島礼紗 中屋敷南 Von・noズ 『オ ムツを脱いだサル The Girl in Rabbit's skin マザー・グース』		日本
	悪童 水の中がね∞ 久保田舞 『BLACKOUT 古臭い ジョン・ドウ』		日本
フィジカルシアターカンパニー GERO	あなたはわたしのなんなの？	かなっくホール	日本
ラファエル・アルヴァレス BODYBUILDERS	距離のある波の上で	若葉町ウォーフ	ポルトガル
くるくるシルク DX	8Q3	象の鼻テラス	日本
ARTWAVE	林其蔚 (リン・チーウェイ)、王虹凱 (ワ ン・ホンカイ) 『声を呼び覚ます』	Kosha33	台湾
	鄭尹真 (チェン・インジェン)、林宜瑾 (リ ン・イージン) 『複数の連続体』	県民共済みらいホール	台湾
藤田陽介	NOISEEM	The CAVE	日本
ZINKandSILENTLISTEN	ZINKandSILENTLISTEN - Human Techno and Alternative Ambient	横濱エアジン	ドイツ
笛井事務所	Trance	野毛 Hana * Hana	日本
贅沢貧乏	わかろうとはおもっているけど	BUKATSUDO HALL	日本
劇団かかし座	Hand Shadows ANIMARE	横浜人形の家 あかいくつ 劇場	日本
ジェラード・レビック × 赤間涼子	What Are They Doing?	The CAVE	日本、ポーランド
ナムディ	メディアまたは、見つめるによって	Design Festa Gallery	韓国
N///K (ナチュラル・キラー)	風と毛穴 器官と音	座・高円寺 2	日本
鉄秀	禅問答ライブペイント 『舞禅』	ザ・スズナリ	日本
86B210	震える空	Art Space 呼応 Co-oh	日本
NPO 法人芸術文化ワークス	DRUMMING SOLO - S.REICH / KUNIKO	かなっくホール	日本
ドロシー・メランダー・デートン	yokomeshi: a meal eaten sideways	アーツ千代田 3331	アメリカ
譜面絵画	わたしたちの ひかりの いえ	SCOOL	日本
ARICA	孤島	東邦ビル内 ARICA 特設 会場	日本

アーティスト／オーガナイザー ／プロジェクト	演目	会場	拠点国・地域
Dance Lab 実行委員会	Dance Lab @横浜赤レンガ倉庫1号館 「ダンスと映像の新たな地平～見るこ と、見られること」～国際共同製作プロ ジェクト『ON VIEW』を参考事例とし て～	横浜赤レンガ倉庫1号館 2FスペースC	日本
安藤洋子／ZOU-NO-HANA BALLET PROJECT	Efforts to study Forsythe 1	象の鼻テラス	日本
武本拓也	正午に透きとおる	The CAVE	日本
仮面劇おもて	女たちの一生	若葉町ウォーフ	日本
榎田祥光／Dance Company Lasta	白昼夢	THE HALL YOKOHAMA	日本
N2	書き言葉と話し言葉の物性を表在化す る試み Tab.4 『磔柱の梨子』	カフェムリウイ屋上劇場	日本
世田谷シルク	春夏秋冬	YCC ヨコハマ創造都市 センター 3F	日本
Co. 山田うん	いきのね	KAAT 神奈川芸術劇場 ホール	日本
サファリ・P	サファリ・P 第5回公演『悪童日記』	横浜美術館レクチャー ホール	日本

新聞	掲載媒体名	掲載日 / 号	内容など
1	東愛知新聞 1面	2018/12/15	花祭の素晴らしさを世界へ ダンス公演『いきのね』
2	Vientiane Times	2019/01/18	Lao artists bound for Japanese performing arts gathering
3	毎日新聞朝刊 22面	2019/01/17	「遊ナビ 催し／東京」イベント概要
4	朝日新聞夕刊 文化面	2019/01/28	ホセ・マセダ プログラム紹介
5	東洋経済日報 文化面	2019/02/01	イベント概要紹介（フリンジ参加の韓国作品の紹介が中心）
6	産経新聞 文化面	2019/02/02	イベント概要紹介
7	しんぶん赤旗 9面	2019/02/04	イベント概要紹介
8	東京新聞夕刊 文化面	2019/02/05	ホセ・マセダ プログラム紹介
9	毎日新聞夕刊 文化面	2019/02/27	『ポスト資本主義オークション』レポート
10	読売新聞	2019/02/27	『GE14』レポート
11	日本経済新聞夕刊 文化面	2019/03/12	『ポスト資本主義オークション』レポート
12	図書新聞	2019/06/08	高橋宏幸氏による TPAM レポート
雑誌	掲載媒体名	掲載日 / 号	内容など
1	STUDIO VOICE	2018/09	小特集「アジア音楽入門」にて恩田晃氏が TPAM2019 に言及
2	ANGLE	2019/01-03	KAAT でのホセ・マセダ関連公演紹介
3	intoxicate	2018/12/01	exotic grammar vol.60-3 ホセ・マセダ
4	地域創造レター	2019/01/01	TPAM2019 開催のお知らせ
5	BLUE NOTE TOKYO JAM	2019/01/15	イベント概要紹介
6	ベストステージ	2019/02/01	ロングインタビュー 丸岡ひろみ
7	SALUS	2019/02/01	「アンテナ」にイベント概要
8	創造都市横浜マガジン	2019/03/31	パフォーミングアーツ特集にて TPAM を紹介
9	ダンスマガジン	2019/05	フリンジ作品『いきのね』レビュー
10	テアトロ	2019/05	高橋宏幸氏による TPAM レポート
11	アート・コレクターズ	2019/05	『ポスト資本主義オークション』レビュー
12	アート・コレクターズ	2019/06	『ポスト資本主義オークション』紹介
13	American Theatre Magazine	2019/05-06	日本特集（TPAM ディレクター丸岡へのインタビュー含む）
14	美術手帖	2019/06	『不産主義』レビュー
15	アート・コレクターズ	2019/07	『ポスト資本主義オークション』レポート
16	BankART NEWS	2019/05-07	TPAM オープニングセレモニー レポート
ラジオ	番組名	放送日	内容など
1	J-WAVE GOOD NEIGHBORS	2019/01/30	TPAM ディレクター丸岡へのインタビュー
2	NHK サウンドクルーズ	2019/02/05	TPAM ディレクター丸岡へのインタビュー
3	NHK WORLD-JAPAN	2019/02/20	Eko Supriyanto Tampilkan Karya “Salt” di Jepang
ウェブ	掲載媒体名	掲載日 / 号	内容など
1	ステージナタリー	2018/02/07	白井晃芸術監督が熱い思いを込め、KAAT の 2018 年度ラインナップ発表
2	舞台制作 PLUS	2018/05/06	「TPAM2019 会期日程決定 & 長期インターン募集
3	国際交流基金アジアセンター	2018/05/07	Next Generation: Producing Performing Arts 応募者募集
4	あうるすぽっと	2018/05/15	第 7 回 舞台芸術に関わりたい人のためのインターンシップ等 合同説明会【東京】
5	ステージナタリー	2018/05/30	「TPAM2019」開催決定、長期インターン募集も
6	文化政策提言ネットワーク（CP ネット）：情報掲示板	2018/06/13	TPAM2019：長期インターン募集のお知らせ

7	Creative New Zealand (ニュージーランド政府機関)	2018/07/20 締切	Asian Performing Arts Markets Travel Fund 2018/19 の採択者に、TPAM2019 参加を目指す Atamira Dance Collective が含まれる
8	The Japan Foundation Manila	2018/07/22 締切	Next Generation: Producing Performing Arts 応募者募集
9	The Japan Foundation Kuala Lumpur	2018/07/22 締切	Next Generation: Producing Performing Arts 応募者募集
10	BankART1929 Blog	2018/07/28	ヨコハマ創造界隈アーティストトーク 丸岡ひろみ
11	Sanatorium Dźwięku festival	2018/08/17-19	恩田晃氏 (フェスティバル参加者) 紹介ページにて TPAM2019 のパフォーマンスに言及
12	舞台制作 PLUS	2018/08/23	フリンジ参加登録受付中
13	Twilog - ネビュラエクストラサポート (Next)@next_nevula	2018/08/23	舞台制作 PLUS 記事 (12) へのリンク
14	演劇業界あてな	2018/08/23	舞台制作 PLUS 記事 (12) 転載
15	Australia Council for the Arts	2018/09	TPAM2019 参加資金援助 応募者募集
16	ネット TAM キャリアバンク	2018/09/20	国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2019 短期スタッフ募集
17	The Japan Foundation Bangkok	2018/09/27 締切	OPEN CALL for invited presenters to TPAM2019
18	演劇交差点	2018/10/06	世田谷シルク 2月 TPAM 参加作品 女性ダンサー募集
19	CINARS - Joint Attendance	2018/10/09 頃	TPAM - PERFORMING ARTS MEETING IN YOKOHAMA / CANADA ON STAGE (TPAM 参加情報)
20	Performing Arts Hub Norway	2018/10/23 頃	OPEN CALL - TPAM 2019
21	Dance Information Norway	2018/11/05	Performing Arts Hub Norway 記事 (20) 転載
22	American Dance Abroad	2018/11/07 頃	The American Corner at Marketplaces and Festivals - TPAM などのイベントの共同参加者募集
23	KAAT 神奈川芸術劇場	2018/11/07	TPAM - 国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2019 『カセット 100』 演奏者 100 人募集 !!
24	横浜みなとみらい 21 公式ウェブサイト	2018/11/16	世界の舞台芸術の“今”を紹介し“これから”を創造する 9 日間!
25	緑の goo	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
26	Fresheye ニュース	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
27	Google ニュース	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
28	Yahoo! ニュース	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
29	徳島新聞 WEB	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
30	SankeiBiz	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
31	Response (レスポンス)	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
32	インターネットコム	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
33	SHIKOKU NEWS (四国新聞)	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
34	ヨコハマ経済新聞	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
35	伊勢新聞	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
36	宅ふぁいる便	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
37	AFP BBNews	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
38	千葉日報オンライン	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
39	京都新聞	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
40	毎日新聞	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
41	J-CAST ニュース	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
42	東京バーゲンマニア	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
43	MIYANICHI e PRESS (宮崎日日新聞)	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
44	みやびズ	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
45	RBB TODAY	2018/11/19	事務局発行リリース掲載

46	Asahi Shimbun Digital & M	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
47	AGARA 紀伊民報	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
48	DietClub (ダイエットクラブ)	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
49	excite ニュース	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
50	ZDNet Japan	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
51	Jタウンネット 東京都	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
52	minyu-net (福島民友)	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
53	SEO TOOLS ニュース	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
54	VNR.ch	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
55	高知新聞	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
56	さきがけ on The Web (秋田魁新報)	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
57	どうしんウェブ (北海道新聞)	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
58	CNET Japan	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
59	47NEWS	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
60	上毛新聞ニュース	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
61	茨城新聞クロスアイ	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
62	株式会社共同通信社	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
63	共同通信デジタル	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
64	ジョルダンニュース!	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
65	SANSPO.COM	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
66	ZAKZAK	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
67	StartHome	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
68	新潟日報モア	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
69	共同通信 PR ワイヤー	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
70	Infoseek 楽天 NEWS	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
71	MANTANWEB	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
72	デーリー東北新聞社	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
73	沖縄タイムスプラス	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
74	毎日スタイル	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
75	週刊女性 PRIME	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
76	福井新聞 ONLINE	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
77	FM FUKUOKA	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
78	下野新聞 SOON	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
79	河北新報 ONLINE NEWS	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
80	山形新聞やまがたニュースオンライン	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
81	山梨日日新聞	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
82	週刊エコノミスト	2018/11/19	事務局発行リリース掲載
83	奈良新聞	2018/11/20	事務局発行リリース掲載
84	ステージナタリー	2018/11/20	TPAM2019 プログラム発表、ディレクションに『カセット100』ほか全10演目
85	Yahoo! Japan ニュース	2018/11/20	ステージナタリー記事 (84) 転載
86	月刊イベントマーケティング ウェブ版	2018/11/22	「TPAM - 国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2019」2月に開催
87	Resident Advisor	2018/11/26	TPAM2019 に Claudio Puntin、空間現代、Terre Thaemlitz ら出演

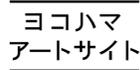
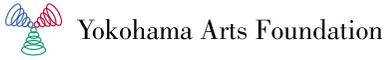
88	ステージナタリー	2018/11/27	“生活の中に風や日光を”、譜面絵画『わたしたちの ひかりのいえ』
89	国際交流基金アジアセンター イベント情報	2018/11/28	国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2019 (TPAM2019)
90	The Wire	2018/11/28	Aki Onda curated TPAM – Performing Arts Meeting in Yokohama
91	マグカル	2018/11/29	演奏者 100 人募集！ ホセ・マセダ作品『カセット 100』 TPAM2019 恩田晃ディレクション
92	mirea	2018/11/29	演奏者 100 人募集！ ホセ・マセダ作品『カセット 100』
93	横浜みなとみらい 21 公式ウェブサイト	2018/11/29	演奏者 100 人募集！ ホセ・マセダ作品『カセット 100』
94	演劇交差点	2018/12/11	TPAM フリンジ 2019 参加作品 譜面絵画 vol.8『わたしたちのひかりの いえ』
95	ステージナタリー	2018/12/19	ダイビングと古典舞踊から着想得たソロダンス、エコ・スプリヤント『ソルト』
96	創造都市横浜	2018/12/27	創造を育むネットワークの力 - “Yokohama” の舞台芸術・最前線 (前編)
97	創造都市横浜	2018/12/27	創造を育むネットワークの力 - “Yokohama” の舞台芸術・最前線 (後編)
98	横浜みなとみらい 21 公式ウェブサイト	2019/01/02	国際舞台芸術ミーティング in 横浜 (TPAM) フリンジ参加作品 富山のはるか『サロメ』
99	演劇交差点	2019/01/03	世田谷シルク公演『春夏秋冬』
100	ステージナタリー	2019/01/04	富士山アネット新作は架空の国を舞台にしたイマーシブシアター『霧の国』
101	ART iT	2019/01/15	NEWS: Tatsuo Majima “TPAM (Performing Arts Meeting in Yokohama 2019)” @blanClass
102	ART iT	2019/01/15	NEWS: 真島竜男「TPAM (国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2019)」@blanClass
103	神奈川芸術プレス WEB 版	2019/01/15	国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2019 (TPAM in Yokohama 2019) KAAT 神奈川芸術劇場
104	Mercure des Arts	2019/01/15	注目のコンサート 2019 年 2 月: ホセ・マセダ関連企画
105	STSpot 横浜	2019/01/16	TPAM フリンジ S T スポットセレクション vol.2
106	CINRA.NET	2019/01/17	ジンイ・ワン × 小崎哲哉 対談 お金を超えたユニークな価値の必要性
107	演劇交差点	2019/01/17	IDIOT SAVANT theater company 現代劇作家シリーズ参加作品『日本国憲法』オーディション
108	ファッションスナップ・ドットコム	2019/01/18	真鍋大度らが出品、アートの価値を問う参加型パフォーマンス『ポスト資本主義オークション』が開催
109	エキサイトニュース	2019/01/18	ファッションスナップ・ドットコム記事 (108) 転載
110	ニュースピックス	2019/01/18	ファッションスナップ・ドットコム記事 (108) 転載
111	ニュートピ!	2019/01/18	ファッションスナップ・ドットコム記事 (108) 転載
112	mixi ニュース	2019/01/18	ファッションスナップ・ドットコム記事 (108) 転載
113	Cartoon-Productions	2019/01/21	Werkbezoek TPAM – Performing Arts Meeting Yokohama 2019: Liz Kinoshita & Charlotte Vandevyver, Myriam Van Imschoot & Karlien Vanhoonacker が Kunstenpunt と協働
114	国際交流基金アジアセンター 最新ニュース	2019/01/22	TPAM2019 にあわせ、40 名の舞台芸術関係者を招へい
115	ステージナタリー	2019/01/22	ハイドロブラスト『幽霊が乗るタクシー』 ダンス、落語、ドキュメンタリーの手法を融合
116	ステージナタリー	2019/01/23	三重スパイ? 謎の人物を巡る“亡霊と空隙に満ちた”作品『神秘のライ・テク』
117	ライブドアニュース	2019/01/23	ステージナタリー記事 (116) 転載
118	@DIME (アットタイム)	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載

119	フレッシュアイ	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
120	ライブハウスドットコム	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
121	現代ビジネス	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
122	東洋経済オンライン	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
123	@nifty ビジネス	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
124	ダイヤモンド・オンライン	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
125	JBpress (日本ビジネスプレス)	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
126	iza (イザ!)	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
127	BIGLOBE ニュース	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
128	STRAIGHT PRESS	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
129	RBBTODAY	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
130	時事ドットコム	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
131	ジョルダンニュース!	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
132	PRESIDENT Online	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
133	読売新聞 (YOMIURI ONLINE)	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
134	ORICON NEWS	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
135	SEOTOOLS	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
136	BARKS	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
137	NewsCafe	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
138	BEST TIMES (ベストタイムズ)	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
139	とれまがニュース	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
140	産経ニュース	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
141	おたくま経済新聞	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
142	エキサイトニュース	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
143	STREET JACK	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
144	Infoseek ニュース	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
145	BtoB プラットフォーム	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
146	ウレびあ総研	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
147	朝日新聞デジタル& M	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
148	マビオンニュース	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
149	財経新聞	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
150	Cube ニュース	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
151	ニコニコニュース	2019/01/23	横浜市芸術文化振興財団発行リリース掲載
152	ハッカドール	2019/01/24	ステージナタリー記事 (116) 転載
153	ステージナタリー	2019/01/24	「国際ダンス映画祭」横浜と東京で開催、関連ワークショップも
154	朝日新聞デジタル	2019/01/28	フィリピンの作曲家ホセ・マセダの珍しい2曲を上演
155	ステージナタリー	2019/01/29	かもめマシーンがベケット『しあわせな日々』上演、トークゲストに長島確
156	アートスケープ	2019/02/03	アートフラッシュニュース ジンイ・ワン『ポスト資本主義オクション』
157	スタジオアーキタンツ BLOG	2019/02/03	TPAM にてアーキタンツがプレゼンテーション
158	中日新聞プラス	2019/02/05	100人の「演者」と5台のピアノ、異色の調べ 横浜で10、11日公演
159	ステージナタリー	2019/02/07	世田谷シルク、“おわら風の盆”からインスピレーション受けた「春夏秋冬」

160	ステージナタリー	2019/02/09	東野祥子 & カジワラトシオ 『カセット 100』 カセットプレイヤー手に 100 人が回遊
161	RealTokyo	2019/02/09	ARICA 『孤島 On the Island』 レビュー
162	野村誠ブログ	2019/02/10	野村誠の作曲日記
163	フォーカス台湾	2019/02/11	横浜で開催の舞台芸術イベントに台湾アーティストが参加、特色を発信
164	フレッシュアイ	2019/02/13	横浜市芸術文化振興財団発行発行『ポスト資本主義オークション』リリース掲載
165	@DIME (アットタイム)	2019/02/13	横浜市芸術文化振興財団発行発行『ポスト資本主義オークション』リリース掲載
166	ジョルダンニュース!	2019/02/13	横浜市芸術文化振興財団発行発行『ポスト資本主義オークション』リリース掲載
167	NewsCafe	2019/02/13	横浜市芸術文化振興財団発行発行『ポスト資本主義オークション』リリース掲載
168	BIGLOBE ニュース	2019/02/13	横浜市芸術文化振興財団発行発行『ポスト資本主義オークション』リリース掲載
169	PRESIDENT Online	2019/02/13	横浜市芸術文化振興財団発行発行『ポスト資本主義オークション』リリース掲載
170	@nifty ビジネス	2019/02/13	横浜市芸術文化振興財団発行発行『ポスト資本主義オークション』リリース掲載
171	財経新聞	2019/02/13	横浜市芸術文化振興財団発行発行『ポスト資本主義オークション』リリース掲載
172	iza (イザ!)	2019/02/13	横浜市芸術文化振興財団発行発行『ポスト資本主義オークション』リリース掲載
173	ダイヤモンド・オンライン	2019/02/13	横浜市芸術文化振興財団発行発行『ポスト資本主義オークション』リリース掲載
174	Cube ニュース	2019/02/13	横浜市芸術文化振興財団発行発行『ポスト資本主義オークション』リリース掲載
175	おたくま経済新聞	2019/02/13	横浜市芸術文化振興財団発行発行『ポスト資本主義オークション』リリース掲載
176	STRAIGHT PRESS	2019/02/13	横浜市芸術文化振興財団発行発行『ポスト資本主義オークション』リリース掲載
177	時事ドットコム	2019/02/13	横浜市芸術文化振興財団発行発行『ポスト資本主義オークション』リリース掲載
178	現代ビジネス	2019/02/13	横浜市芸術文化振興財団発行発行『ポスト資本主義オークション』リリース掲載
179	JBpress (日本ビジネスプレス)	2019/02/13	横浜市芸術文化振興財団発行発行『ポスト資本主義オークション』リリース掲載
180	東洋経済オンライン	2019/02/13	横浜市芸術文化振興財団発行発行『ポスト資本主義オークション』リリース掲載
181	マピオンニュース	2019/02/13	横浜市芸術文化振興財団発行発行『ポスト資本主義オークション』リリース掲載
182	とれまがニュース	2019/02/13	横浜市芸術文化振興財団発行発行『ポスト資本主義オークション』リリース掲載
183	エキサイトニュース	2019/02/13	横浜市芸術文化振興財団発行発行『ポスト資本主義オークション』リリース掲載
184	Infoseek ニュース	2019/02/13	横浜市芸術文化振興財団発行発行『ポスト資本主義オークション』リリース掲載
185	ニコニコニュース	2019/02/13	横浜市芸術文化振興財団発行発行『ポスト資本主義オークション』リリース掲載
186	ニコニコニュース	2019/02/13	横浜市芸術文化振興財団発行発行『ポスト資本主義オークション』リリース掲載
187	朝日新聞デジタル & M	2019/02/13	横浜市芸術文化振興財団発行発行『ポスト資本主義オークション』リリース掲載

188	読売新聞オンライン	2019/02/13	横浜市芸術文化振興財団発行発行『ポスト資本主義オークション』リリース掲載
189	産経ニュース	2019/02/13	横浜市芸術文化振興財団発行発行『ポスト資本主義オークション』リリース掲載
190	BtoB プラットフォーム	2019/02/13	横浜市芸術文化振興財団発行発行『ポスト資本主義オークション』リリース掲載
191	PR TIMES	2019/02/13	横浜市芸術文化振興財団発行発行『ポスト資本主義オークション』リリース掲載
192	フォーカス台湾	2019/02/13	世界のキュレーターらと交流 コラボに期待=台湾、横浜の舞台芸術イベント参加
193	ニコニコニュース	2019/02/13	TPAM2019 『ポスト資本主義オークション』開催！
194	ステージナタリー	2019/02/13	GERO、シュヴァンクマイエル作品がヒントの『あなたはわたしのなんなの？』開幕
195	ステージナタリー	2019/02/13	女性が昭和・平成を生きる姿を流行歌と描く、仮面劇おもて『わたちの一生』
196	台湾経済日報	2019/02/14	新田幸生穿針引線 台湾氣勢在横浜 TPAM 盛會盡現
197	girls Artalk	2019/02/14	アートの価値を、考えてみよう。『ポスト資本主義オークション (PCA)』開催！
198	dommune	2019/02/14	『ポスト資本主義オークション』ストリーム配信
199	演劇最強論-ing	2019/02/15	藤原ちからの2018年プレイバック
200	横浜美術館ブログ	2019/02/22	『ポスト資本主義オークション』に言及
201	ステージナタリー	2019/02/25	椎橋綾那と宮部純子のシガール姉妹、ロシアへ！ 前田司郎の監督作上映会も
202	IDEAS FOR GOOD	2019/02/26	お金以外の価値を問う。「機会」「理解」「交換」で入札する、『ポスト資本主義オークション』
203	RA	2019/02/26	ZINKandSILENTLISTEN at TPAM2019
204	毎日新聞デジタル版	2019/02/27	『ポスト資本主義オークション』レポート
205	Metropolis	2019/03/08	NIBROLL'S "DRAMA QUEEN" REVIEW
206	急な坂スタジオ	2019/03/09	フリンジ参加3作品レビュー
207	asian cultural council	2019/03/13	Rewind / Fast-Forward / Press Play
208	Mercure des Arts	2019/03/15	ホセ・マセダ：5台のピアノのための音楽、2台のピアノと4本の管楽器
209	Mercure des Arts	2019/03/15	Pick Up (19/3/15) ホセ・マセダ『カセット100』
210	+〇++〇	2019/03/19	山下残インタビュー
211	RealTokyo	2019/03/26	『GE14』『仮構の歴史』(ワーク・イン・プログレス)『暴力の星座』劇評
212	OTOTOY	2019/04/13	『GE14』劇評
213	AMERICAN THEATRE	2019/04/22	Land of the Rising Stage
214	AMERICAN THEATRE	2019/04/22	An Island No More
215	ARTS EQUATOR	2019/05/02	Confronting Truths in Ho Tzu Nyen's "The Mysterious Lai Teck"
216	ARTS EQUATOR	2019/05/10	ArtsEquator's Top 10 Picks at the Performing Arts Meeting 2019
217	フェスティバル/トーキョー	2019/06/04	「対立多発時代」に非人間的視点から世界に臨む演劇 - マグダ・シュベフト (グループ・ミーティング参加) インタビュー
218	ART iT	2019/06/10	テリ・テムリッツインタビュー
219	Mikiki	2019/08/01	ホセ・マセダ - ヨーロッパ〜アメリカ〜アジアを往還した、フィリピンの民族音楽学者/作曲家のカセット・テープ作品とピアノ音楽 (雑誌 intoxicate exotic grammar vol.60-3)
220	Explat		長期インターン募集概要

221	Asia-Europe Foundation		Next Generation: Producing Performing Arts (TPAM2019 参加を含むアジアセンターの援助プログラム) 募集について
222	ハッカドール		ステージナタリー記事転載
223	CoRich 舞台芸術! beta		CoRich 舞台芸術まつり応募者団体紹介、TPAM2019 出演予定との記述
224	Western Arts Alliance		TPAM2019 会期と旧サイトへのリンク Arts Links - INTERNATIONAL RESOURCES - PACIFIC RIM PERFORMING ARTS MARKETS
225	ASEF Culture 360		「News & Events」にイベント概要と期間掲載
226	横浜ダンスコレクション 2019		HP にバナー掲載
227	KAAT 神奈川芸術劇場		「公演情報」に TPAM 掲載
228	The Wire		「Events」に音楽系プログラム中心に TPAM 概要掲載
229	国際交流基金アジアセンター イベント情報		国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2019 TPAM ディレクション 恩田晃ディレクション、『ソルト』紹介
230	象の鼻テラス		TPAM フリンジ作品 くくるシルク DX 『8Q3』
231	一般財団法人 地域創造 - 地域創造レター 1 月号		財団からのお知らせ:「TPAM - 国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2019」開催のお知らせ
232	東京ドイツ文化センター		「催し物 ZINKANDSILENTLISTEN - HUMAN TECHNO AND ALTERNATIVE AMBIENT」
233	東京芸術劇場		「公演情報 悲劇のヒロイン」
234	共生共創事業		「TPAM - 国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2019 関連イベント」(台湾アートウェブ @ 県民共済みらいホール)
235	公募ガイド ONLINE		「TPAM 国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2019 『カセット 100』 演奏者 100 人募集 !!」
236	現代音楽イベントカレンダー		2019 年 02 月
237	YAMAHA ウェブサイト		5 台のピアノのための音楽
238	Flanders Art Institute		Working Visit: TPAM Performing Arts Meeting Yokohama 2019
239	Culture NIPPON		TPAM in Yokohama 2019 Fringe 台湾 ARTWAVE 『複数の連続体 / The Spectrums』
広告	掲載媒体名	掲載日 / 号	内容など
1	The Wire	2019/01/01	TPAM 広告 (音楽系プログラム中心) 掲載



THE SAISON FOUNDATION



編集・発行：国際舞台芸術ミーティング in 横浜 事務局
発行日：2020年5月26日
©国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2019 実行委員会

www.tpam.or.jp